

## 博報財団 第12回「国際日本研究フェローシップ」成果報告書

## I. 研究成果概要

氏名	王 世和 (オウ セイワ)
在住国名	台湾
所属・役職	東呉大学日本語文学系・教授
招聘回(招聘研究期間)	第12回 (2017年9月1日～2018年8月31日)
受入機関	国立国語研究所
招聘研究テーマ	文脈重視の日本語教育文法の研究—テイルの用法を例に—
研究目的	教育現場に役立つ日本語文法の研究・教育を考える
研究成果概要	
<p>1. どのように研究を進めたか(具体的に)</p> <p>この一年間の研究は主に以下の三つの方法で進められる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国語研の研究報告会・発表・講演に参加</li> <li>2. 一橋大学の庵功雄教授のゼミに参加</li> <li>3. 国語研の外来研究員研究室で野田尚史教授をはじめとする日本語教育文法の研究成果を研究・勉強</li> </ol>	
<p>2. 研究によりどのような知見が得られたか(具体的に)</p> <p>上記1の方法で得た知見は以下の三点にまとめられる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国語研の使命・役目や、研究組織・研究課題、各研究領域の研究プロジェクトの執行方法、具体的な研究方法・成果</li> <li>2. 一橋大学の庵ゼミの研究概念・方法、修士・博士論文の指導方法、共同研究・作業の可能性</li> <li>3. 日本語教育文法の現状を把握し、それを踏まえた上で、文章・談話の立場から「運用能力のための語学知識」という概念を提案。</li> </ol>	
<p>3. 研究成果(予定を含む)</p> <p>一年間の滞在中は、上半期は主に日本語教育文法の現状を把握し、テイルの関連研究を踏まえ、教育現場への提言について私見をまとめた。下半期は、特定の文法項目から研究の体系づくりへと方向転換し、文章・談話の立場に基づいた可能な視点を探った。具体的には、「テイル」「ル形」「非限定的連体節」「非言語的要素」「運用能力のための語学知識」という五つの研究課題に取り組み、以下の研究成果を挙げた。</p> <p>○論文(題目, 掲載誌, 発行者, 掲載月, 内容の概略(200字以内))</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2018.3「日本語教育のための文法研究」『東呉日語教育学報』50, pp.1-27 内容の概略: 文章・談話の観点から、「運用能力のための語学知識」という概念とそれを実現するための研究視点・方法を提案し、日本語教育文法の一つ可能性を探った。</li> <li>2. 2018.6「文脈重視の日本語教育文法の研究—テイルの用法を例に—」『台湾日語教育學報』30, pp.110-136 内容の概略: 物語文の文章構成、シタ・シテイタの意味を踏まえ、「動詞+ている」の理解・産出に役立つ説明方法を提案した。</li> <li>3. 2018.6「非言語的要素の談話機能についての一考察」『台湾日本語文學報』43, pp.115-137 内容の概略: 言語行動の構成要素には、言語的要素と、動作・表情・声といった非言語的要素が含まれている。言語的要素との交渉の観点から、非言語的要素の談話機能について考えてみた。</li> </ol> <p>○口頭発表(題目, イベントの名称, 日・場所, 内容の概略(200字以内))</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 2018.4「運用能力のための語学知識」一橋日本語教育研究会で講演(4月28日、一橋大学にて)</li> </ul>	

内容の概略:「運用能力のための語学知識」という研究概念について一橋大学の教師・院生と意見交換するために、上記の「日本語教育のための文法研究」(2018.3)という論文の内容を話題にし、分かりやすい用例を増やし、講演を行った。

○その他の活動

- 2017.10「非言語的要素の談話機能」科技部專題研究(MOST 105-2410-H-031-049-)結果報告
- 2017.12「文脈から見るル形の文章中の用法」科技部專題研究(MOST 107-2410-H-031-046-)申請書
- 2018.10「文脈から見る非限定的連体節の文章機能」科技部專題研究 (MOST 106-2410-H-031-040-)結果報告

4. 今後の活動予定

帰国後は、大学での教育・研究活動以外にも、理事として台湾日本語教育学会・台湾日本語文学会の運営に携わることになっているため、上記の2に述べた、この一年間得た知見を以下のことに応用する予定である。

- 「運用能力のための語学知識」の具体化
- 大学院での授業、修士・博士課程での論文指導
- 日本語教育文法の概念の普及
- 学部・学科・学会、研究プロジェクトへの応用